

Psychosocial process in mothers with depressed mood who continue to fulfill their parenting responsibilities

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2018-06-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00051289

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



平成 30年 2月 20日

博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号 1429022033

氏 名 片山 美穂

論文審査員

主 査（職名） 稲垣 美智子（教授）



副 査（職名） 加藤 真由美（教授）



副 査（職名） 北岡 和代（教授）



論文題名 Psychosocial process in mothers with depressed mood who continue to fulfill
their parenting responsibilities

論文審査結果

【論文内容の要旨】

本研究の目的は、抑うつ状態にありながらも育児を継続している母親の心理社会的プロセスを明らかにすることであった。産後 1 か月または生後 2～4 か月時に、エジンバラ産後うつ病自己調査票による抑うつ状態が疑われる高得点者あるいは、育児不安が強く抑うつ傾向が高いと判断された母親 11 名に半構成的面接を行った。分析にはグラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた。その結果、中核カテゴリー【現状への気づき】と 11 のサブカテゴリーを抽出した。抑うつ状態にある母親は、日々《子どもへの対応の困難さ》を感じていたが、その後に辿るプロセスはさまざまな形を呈しており、最終的に《できない自分の自覚》あるいは《子どもの対応への自信》のどちらかに至っていた。母親は身近にいる実母や夫からの支援や理解が無いと《自分ひとりの育児》となり、孤独な孤立した育児となっていた。しかし、育児プロセスの中で【現状への気づき】ができるかどうかが重要な分岐点となっていた。現状の自分の頑張りに気づけた場合は《気持ちの切り替え》ができ《子どもの対応への自信》となっていた。自分の頑張りに気づけなかった場合は《あきらめの育児》となり《できない自分の自覚》となっていた。また育児中、対処困難な《突発的な出来事》が起こった時、《ソーシャルサポートとつながる》ことができないと、直ちに《できない自分の自覚》となっていた。抑うつ状態にある母親が安定して育児継続できるためには、支援者である実母には「疲弊防止の支援」、夫には「精神的サポート」、ソーシャルサポートには「孤独感・孤立感の解消」が求められていることが示唆された。

【審査結果の要旨】

産後うつ病の疑いがあっても、専門の医療ケアを受けることなく、抑うつ気分をもちながら、自宅で育児をしている母親の存在に着目し、心理社会的プロセスを明らかにした貴重で学術的価値のある研究である。グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて分析した結果としてのストーリーラインは、現場レベルにおいても即活用可能と期待できる。公開審査では、いずれの質問にも適切な応対がなされた。以上、学位請求者は本論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。